

1 日 時 平成30年6月14日(木) 5校時(13:55～14:40)

2 場 所 運動場(雨天時:体育館)

3 単元名 鹿島へGO!～ミスターXからの挑戦～

4 単元の目標

- 真っ直ぐ走ったり蛇行しながら走ったりし、継走しながら折り返しリレーができるようにする。
(技能)
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
(態度)
- 楽しく遊ぶための場を選択したり、友達のよい動きを見つけたりすることができるようにする。
(思考・判断)

5 指導観

(1) 児童の実態

本学級の児童(男子15名、女子11名、計26名)は、明るく元気で、体を動かすことが好きな児童が多い。休み時間には、鬼遊びや遊具遊びなどの戸外遊びをして体を動かして遊んでいる。

5月に行った体育科に関するアンケートでは、「体育の授業が好き・少し好き」と全児童が答えた。しかし、「走ることは好きですか」という質問では3名の児童が否定的な回答を示した。その理由は、「疲れるから」「走るのが遅いから」と答えた。また、「走ることは得意ですか」という質問では、4名の児童が「少し苦手・苦手」と答えた。このように、「走る」ことに対する自信のなさや、「走る」ことへの楽しさを見出せていない児童がいることが分かった。

(2) 運動の特性

走の運動遊びは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりするなどの動きを通して、調子よく走るとともに、友達と速さや距離を競い合ったり、目指す記録に挑戦したりして楽しむ運動遊びである。また、順番やきまりを守りながら友達と仲よく、安全に運動することに価値を見出すことができ、体の動かし方の基礎・基本を大切にしながら全力で運動することによって身体能力を高めていくことができる。低学年は、中学年の走の運動、高学年の陸上運動につながる学習であり、いろいろな動きを身に付けていくための基礎感覚づくりが必要となる。

かけっこ・リレー遊びは、距離を決めて調子よく走ったり、競い合ったりする楽しさがあり、児童が夢中になって取り組むことができる運動である。また、チームの仲間と協力し、関わり合いながら、簡単な遊び方を工夫することができる。

(3) 本時の指導

本単元では、児童が活動の中で走る楽しさを味わうことをねらいとしている。そのために、直走路を全力で走らせたり、いろいろな走り方をさせたりできる場を設定すること、学級全体で「たくさん走れるように頑張ろう」というめあてを示し、チーム内での児童の関わりやチーム同士の関わりを大切にさせ、単元を通して学び合うことの2点に重点を置いている。児童の活動への意欲を高めるために、第1時では、「ミスターX」からのビデオメッセージを見せ、速く走れるようになりたいという意欲を高めた。その後、真っ直ぐ走ったりいろいろな方向に走ったりする活動に繰り返し取り組むこと

で、走ることが苦手な児童でも少しずつ慣れていけるようにした。折り返しリレーでは、グループごとの競走ではなく、学級全体で何周走れるか挑戦させることで、学級全体で協力し、達成感を味わえるようにした。また、マジックテープの付いたボールと軍手を使用することで、中学年のバトンリレーの単元につなげられるようにした。

場の設定においては、6チーム編成し、各チームにテーマカラーとチーム名を決めさせた。チーム編成は教師が行い、チーム間の走力が均等になることを考慮して編成した。活動するコースは、長さ20mで、障害物コース（幅2m）と直走路コース（幅1m）を6コース設けた。バトンパスを行う場所は直走路コースの真ん中に設け、バトンを上手に渡したり受けたりすることができるように配慮した。

6 本単元で取り扱う内容の系統表

	低学年 走・跳の運動遊び 「走の運動遊び」	中学年 走・跳の運動 「かけっこ・リレー」	高学年 陸上運動 「短距離走・リレー」
技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 距離や方向などを決めて走る。 ○ 手でのタッチやバトンパスする折り返しリレー遊びをする。 ○ 低い障害物を用いてのリレー遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 距離を決めて調子よく走る。 ○ 走りながらバトンパスをする周回リレーをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 走る距離やバトンパスなどのルールを定めて競争する。 ○ 自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら、一定の距離を全力で走る。
態度	<ul style="list-style-type: none"> ア 進んで取り組む。 イ 順番やきまりを守り、誰とでも仲よくする。 ウ 勝敗の結果を受け入れる。 エ 用具の準備や片付けを、友達と一緒にする。 オ 場の安全に気を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 進んで取り組む。 イ きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合う。 ウ 勝敗の結果を受け入れる。 エ 用具の準備や片付けを友達と一緒にする。 オ 場の危険物を取り除いたり、用具の安全を確かめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 積極的に取り組む。 イ 約束を守り、友達と助け合う。 ウ 勝敗を受け入れる。 エ 用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たす。 オ 場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配る。
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ア 運動遊びの場の中から、自己に適した運動遊びの場を選ぶ。 イ 動き方を知り、友達のよい動きを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 動きを身に付けるための練習の仕方を知り、自分の力に応じた練習方法や練習の場を選ぶ。 イ 動き方や動きのポイントを知り、考えたことを友達に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶ。 イ 仲間との競走（争）や自己の記録への挑戦の仕方を知り、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。

7 評価規準

運動の技能	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断
ア 真っ直ぐに走ったり、蛇行しながら走ったりすることができる。 イ 継走しながら折り返しリレー遊びができる。	ア いろいろな走り方を楽しみながら、進んで運動に取り組むことができる。 イ きまりを守り、仲よく運動に取り組むことができる。 ウ 場の安全に気を付けることができる。	ア 遊び方を知り、楽しく遊ぶことができる場を選ぶことができる。 イ 友達のよい動きを見つめることができる。

8 単元における指導と評価の計画

分 時	10	20	30	40	45	技能	態度	思・判	
1	オリエンテーション	準備体操 補助運動	まっすぐコース	折り返しリレー (まっすぐコース)	振り返り 整理体操 片付け		イ ウ		
2		走り方を考える、試す (くねくね・くるりん)	コース作り	いろいろなコースを 試す			ア		
3	準備体操 補助運動 学習課題 の確認	走り方を考える、試す (びよんびよん・自由)	いろいろなコースを試す	折り返し リレー				ア	
4	修行タイム	コース作り、試走	折り返しリレー			ア		イ	
5							ア		
6	準備運動 補助運動	修行タイム	学習課題 とコース の確認	コース作り、試走		鹿島チャレンジ	ア		
7							イ		

☆ 修行タイム・・・2、3時で考えた走り方を練習する。

☆ 鹿島チャレンジ・・・ボールをバトンとして継走し、折り返しリレーをする。学級全体で何周走ることができたか集計する。

9 本時の指導（6／7）

(1) 目標

- 真っ直ぐに走ったり、蛇行しながら走ったりできるようになる。（技能）

(2) 準備物

ストップウォッチ、カラーコーン、フラフープ、段ボール、ホワイトボード、板書用資料、ボール、カラー軍手、ビブス、

(3) 本時の展開

学 習 活 動	学習内容と児童の意識の流れ	指導上の工夫（支援○と評価◎）
1 準備体操と補助運動をする。	<p>準備体操をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けがをしないようにしっかりやろう。 ・ みんなで大きな声を出そう。 	○ 児童の健康状態を確認し、丁寧に準備体操ができている児童を称揚する。
2 修行タイムをする。	<p>修行タイムをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くねくねが苦手だから、くねくねコースを走ろう。 ・ くるりんコースに挑戦してみよう。 	○ 自分が走りたいコースを走るよう伝える。
3 本時の課題を確認する。	<p>チームで作ったコースを素早く走って、みんなで鹿島を目指そう。</p>	○ 学習課題とともに本時の流れを伝え、学習に見通しをもてるようにする。
4 本時のコースを確認する。	<p>今日のコースを確認してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日はたくさん道を曲がるからくねくねコースがあるね。 ・ びよんびよんの数が増えているよ。 	○ 鹿島までの地図を掲示し、どんなコースがあるか伝える。 ○ 既習したことをもとに、どんな道具を使えばよいか確認する。
5 コースを作って実際に走ってみる。	<p>実際にコースを作って走ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くねくねコースは、コーンを置いて作ってみよう。 ・ コーンの間を狭くしてみよう。 ・ ロープの置き方を変えてみよう。 ・ 他のグループのコースも走ろう。 	○ 自分たちが修行の成果が発揮できるようなコースを作ることを伝える。 ○ グループ内で声を掛け合い、運動が苦手な子にはよい動きをしている子の走り方を紹介し、体の向きや腕の振り方を真似させる。
6 折り返しリレーをする。	<p>鹿島チャレンジをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回よりも多く走りたいな。 ・ 他のチームを応援しよう。 ・ 今日はどこまで行けたかな。 	○ 一度に3グループずつ、3分間行い、残りの3グループは応援をさせる。 ◎ 走り方を選び、真っ直ぐに走ったり、蛇行しながら走ったりできる。（技能）
7 本時の振り返りを行い、整理体操をする。	<p>今日の学習を振り返ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームで協力して、前よりも多く走れてうれしかったよ。 ・ 友達のおかげで、初めてこんな走り方ができたよ。 	○ よい動きや気付きがあった児童に発表させ、学びを共有したり、仲間を称賛したりする。

10 研究の視点

- チームや学級で目標を達成するための手立てや、コース作りを工夫して行かせた活動は効果的であったか。
- 個やチームで楽しく運動するために設定した場は効果的であったか。